

科目名 (Eng)		電気機器Ⅱ (Electrical Machine and apparatus)							
担当教員		山本敏和, 三島裕樹							
対象学年等	学科・専攻	学年	授業期間	区分	単位数	時間数	分野	形態	学修単位科目
	電気工学科	4	通年	必修	2	60	専門	A	
目標基準との対応	福島高専の教育目標との対応: (B-2)								
	卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応: 2)								
		JABEE基準1 (1) との対応: (d)-(2)-a)							
授業の概要と方針		商用発電に用いられる同期発電機、定速度回転する同期電動機、工場から家庭まで広く用いられる誘導機の原理、構造、理論を学習する。							
到達目標		①三相同期発電機の原理、理論を理解し、電圧、電流、出力等を計算できる。②三相同期電動機の理論を理解し、トルク、出力等を計算できる。③三相誘導電動機の原理、理論を理解し、すべり、回転速度、トルク、出力等を計算できる。④各種誘導電動機がどのように利用されているかを理解する。							
授業計画									
前期	週	授業項目	理解すべき内容					事前学習	
	1	同期発電機の原理	交流起電力、同期速度、極数、周波数					電磁誘導	
	2	同期発電機の構造	電機子巻線、固定子、回転子、スリップリング					磁気回路	
	3	同期発電機の種類	回転界磁形、回転電機子形					同期発電機の構造	
	4	電機子巻線法、誘導起電力	電機子巻線、全節巻巻、短節巻、誘導起電力					誘導起電力	
	5	同期発電機の理論	電機子反作用、同期リアクタンス					磁化作用	
	6	等価回路、特性曲線	無負荷飽和曲線、短絡曲線、外部特性曲線					発電機の特性	
	7	前期中間試験						原理・特性	
	8	同期発電機の並行運転	並行運転の条件、負荷の分担					電磁力	
	9	同期電動機の原理	回転磁界、同期速度					回転磁界	
	10	同期電動機の構造	固定子、回転子、電機子巻線、制動巻線					電磁力、磁気回路	
	11	同期電動機の理論	等価回路、電機子反作用					等価回路	
	12	同期電動機のトルク、出力	トルクと負荷角、最大トルク					負荷角、トルク	
	13	位相特性	位相特性 (V 曲線)					運転時の力率	
	14	始動方法、各種同期機	誘導同期電動機、同期調相機					始動方法	
15	問題演習	問題演習、授業まとめ					同期機の理論		
後期	16	三相誘導電動機の原理	回転磁界、トルクの発生					電磁誘導	
	17	三相誘導電動機の構造	固定子、回転子 (巻線形およびかご形)					磁気回路、巻線	
	18	三相誘導電動機の理論 (1)	すべり、誘導起電力、二次周波数					誘導起電力の周波数	
	19	三相誘導電動機の理論 (2)	一次電流、二次電流					変圧器の等価回路	
	20	三相誘導電動機の等価回路 (1)	等価回路、励磁回路、漏れリアクタンス					変圧器の等価回路	
	21	三相誘導電動機の等価回路 (2)	二次を一次に変換した等価回路、簡易等価回路					変圧器の等価回路	
	22	後期中間試験						誘導電動機の理論	
	23	等価回路から求められる諸量	一次入力、鉄損、銅損、二次入力、出力					鉄損、銅損、すべり	
	24	三相誘導電動機の特性 (1)	同期ワット、トルク、二次出力					誘導電動機の等価回路	
	25	三相誘導電動機の特性 (2)	速度特性曲線、最大トルク					誘導電動機の理論	
	26	三相誘導電動機の特性 (3)	比例推移、すべりとトルク・回転速度					誘導電動機の理論	
	27	始動と運転	全電圧始動、Y-Δ 始動、始動補償器法					三相交流回路	
	28	速度制御法	二次抵抗、電源周波数、極数、二次励磁					すべり、比例推移の理	
	29	単相誘導電動機	単相誘導電動機の回転原理					交番磁界	
	30	問題演習						誘導電動機の理論	
試験について		中間試験は授業時間中に50分間で実施する。期末試験は50分間で実施する。							
評価方法		定期試験の成績を80%、課題や小テストの成績を20%として総合的に評価する。							
教科書		最新 電気機器入門、深尾正・新井芳明、実教出版							
参考書		電気機械工学、天野寛徳・常広謙、電気学会、変圧器、坪島茂彦・羽田正弘、東京電気大学出版局							
関連科目		パワーエレクトロニクス、電気磁気学、電気回路・演習、電気電工学実験							
履修上の注意		電磁誘導の法則、電流と磁界の相互作用、直流回路、交流回路を理解しておくこと。また、予習・復習も必要である。							